

農業大国アメリカで広がる「小さな農業」

門田 一徳 著



農業大国アメリカで、小さな農業が広がっているとは意外な事実ではないだろうか。その背景にあるのがCSAだと著者は指摘する。CSAとは「コミュニティ・サポート・アグリカルチャー」の略称で、生産者と消費者が直接つながり、継続的に農産物を取り出す手法のことだ。生産者は市場流通より安定した売り上げを確保でき、消費者はスーパーより割安で新鮮な食材を購入できるというメリットがある。

「食と農」支える道標に

評・高橋 博之
(日本食べる通信リーグ代表)

著者は、記者として10年以上にわたる国内のCSAの現場を追いかけた。CSAの現場は、私と追いかけてきた一人である。私と追いかけてきた一人である。東日本大震災を経て、私が13年に創刊した「東北食べる通信」は、生産者と消費者を食糧物付き情報誌「ソーシャルネットワーク」でつなぐサービスをつなぐ。同通信を生産者と消費者の「お見合い」の場と位置づけ、気が合う生産者を見つけたら定期購入できるCSAサービスも始めた。著者は何度もわたった現場に足を運び、取材を重ね、ときにCSAの必要性を情熱的に訴えてきた。本書には、オフィスに野菜を届ける職場向けや低所得世帯に配慮したCSA、パンやメープルシロップなど、時代の変化に合わせて進化を遂げる

読書日和

常見 陽平さん



つねみ・よへい 1974年札幌市出身。リクルートなどを経て現在、千葉商科大学国際教養学部専任講師。著書に「社会」「なぜ、残業はなくなるらないのか」など。

不惑のフェミニズム

上野千鶴子 著



「ネット炎上」は日常的に起こっている。誰でも炎上は避けたい。ただ、悪いことだとも言い切れない。問題に光を当て、その根深さを明らかにするからだ。人々の主張、立場の違いも可視化される。社会が前に進む。ネット登場前から、上野千鶴子は炎上していた。彼女の文章を初めて読んだのは中学時代だ。キレッキレだった。学術用語と下世話

だが、文化功労者を褒めたたえるような上品な贅辞は逆に失礼だ。火中の栗を拾い、炎に身を焦がしてきたこともまた上野の本質だからだ。ここに彼女のすゝめがある。

「炎上」上等 消火が仕事

上野の3原則は挑発にはあつた。売られたケンカは買つ、乗りがかった舟からは降りないなどという。ただ彼女が論議的だが、好戦的ではない。ふりかかると火の粉を払ってきたままだ。「また女が文句を言っている」と矮小化されがちな話や芸能ネタにも理論的な支えを与え、社会問題として意味付けてきた。連れ出動を巡る「アグネス論争」などがそうだ。平成の流行語大賞は「セクシャル・ハラスメント」(1989年)の受賞で始まり、「#MeToo」(2018年)のトッペン入りで終わった。「女性の時代」が叫ばれ続けたが、問題は山積している。最近もCMの「働く女性」像を巡る炎上が相次ぐ。本書はちつとも占めていないのだ。

ボクテイクな炎上も存在する。声をあげ、論争を戦いつつ、解決策を提示する。これも知識人の仕事だ。上野とは放火魔ではなく「消火魔」なのだ。(働き方評論家 最も古い記録は約4億年前。)

その子の「普通」は普通じゃない

富井 真紀 著



「子どもの貧困」という言葉が広がり始めた約10年前、私たちは豊かな日本にそんなことがあるのかといふかしんだ。だが今や子ども食費が3000円を超えたといわれ、貧困問題は骨髄になった。もっとも子どもたちがどのような貧困を体験するのか、知る人は少ない。当事者の多くが恥を感じ、口を開きずからだ。

著者は、幼い時に母が家を出て行き、祖母に育てられた実父のパチンコ依存が原因で、家に借金取りが押しかけた。中学時代、陸上競技を通じて高校推薦枠に入れる可能性もあったが、父は金を惜しみスパイクを買うことを許さなかった。

中学2年で未来を見失い、夜遊びを始め、仲間の家に入り浸る。そこで見たエアコンやゲーム機のある生活に、格差を実感して打ちのめされた。ひたすら「普通」になりたいと願う。家を出て、仕事を始め祖母に送金したが、その金も父に渡っていた。既婚者だった夫と出会って、19歳でシングルマザーになる決心をして出産。夫の連れ子を虐待してしまい、児童相談所に介入された経験も記す。

貧困連鎖 断ち切るには

春 杉山
(ルポライター)

著者の子ども時代は、1980~90年代。当時、子育ては家族に任せられ、社会は子どもの貧困を無視していた。問題が顕在化した今、国は貧困を個人の責任にすることなく、公的な力を総動員し、連鎖を断ち切ってほしい。本書は、その思いをあらためて強くさせる。

彼女がこうした生活に疑問を抱くようになったのはなぜだろう。ナチ時代の現実を伝える本を手にした時の衝撃。ネオナチが憎悪する移民の男性に危ないと言われ、救われた体験、後に夫となる同志の逮捕など、右翼社会との決別を決意し実行するまでの苦悩の日々が良質なドキュメンタリードラマのように描かれる。右翼社会について、ミューン

ネオナチの少女

ハイドー・ベネンシュタイン 著



第2次世界大戦中のナチ政権下で、ユダヤ人や障がい者などマイノリティの殺害があったドイツ。戦後はその反省から反ナチ的な公的規範を掲げて重い過去と向き合ってきた。だが水面下には、右翼社会がバラレワールドのように広がってその入り口は言葉、ファッション、スポーツなど日常生活の随所に潜んでいる。

著者はドイツ人女性で、18歳までその世界に身を置いていた。熱烈なナチズム信奉者の父の下で、ナチの精神的遺産を受け継ぎ正統派ナチにならねばならなかった。

この時、自身の思いが否定されていたら、「父の支配から一生逃れることができなかったんじゃないか」と著者は書く。適切な介入が、貧困の連鎖を断つには不可欠なのだ。

苦悩し右翼社会と決別

評・石田 勇治
(東京大大学院教授)

極右、排外主義、ヘイトに走る若者を前にわたしたちは何ができるだろうか。特別な処方箋は示されていないが、気づきの機会をつくり、離脱を望む者をサポートする姿勢が重要だ。彼女が脱退できたのもその助けがあつてのこと。右翼社会のネットワークは強靱で、仲間を容易に手放さない。入り口をふさぎないのならせめて出口を用意したい。それが彼女の目の下願いだ。

(平野卿子訳、筑摩書房・2484円)

読んでるほい



植物の病原菌の代表・真菌の胞子は風雨によって運ばれるが、そもそも植物の葉は角皮(クチクラ)という、水と湿りにくい物質で体を防衛しているの

「微生物」を知る

弱めて侵入する。真菌はまた、傷口や植物が酸素や二酸化炭素の出入れに使っている気孔からの侵入も試みる。植物は敵の存在を察知すると気孔を閉じるが、真菌は毒素を出して気孔を開閉するホルモンの動きを邪魔して、開口させることとらわれている。植物は「化学兵器」も持つ。

見えない敵との戦い

真菌がカラー写真で紹介されている。病気が聞こえ嫌なもの、汚いものを想像するが、クロアズアップされた写真は美しい。なかにはクロボ菌に侵されたマコモタケのように植物にとって

県からののお知らせ



宮城県 県からのお知らせ

宮城県任期付職員採用選考考査

●職種・採用予定人員/土木職・58人程度
※宮城県職員として採用され、宮城県または被災した市町で勤務します。応募に当たっては実務経験や資格などが必要です。
●第1次考査/専門考査(考査日:7月7日(日))
●申込期限/6月17日(月)(消印有効)まで
●任期(予定)/原則11月1日~令和3年3月31日
●待遇/給与は県規程による
●人事課 〒980-8570(所在地記載不要) ☎022(211)2286

みぎ花のあまるこコンクール参加者募集

花づくりや緑の育成を通じて地域づくりや人々との交流を行う団体を募集します。
●対象/地域や職場などの団体
●応募方法/応募用紙に必要事項を記入し、花づくりや緑の育成をしている状況がわかる写真を添えて9月13日(金)までに持参(土・日祝日を除く)または郵送(消印有効)により記入
●応募用紙/ホームページからダウンロードまたは郵送により提供

オストメイト社会適応訓練(相談会)

※入賞した団体には、賞状および商品券が贈られます。
●すばらしいみやぎを創る協議会事務局(共同参画社会推進課内)
〒980-8570(所在地記載不要) ☎022(211)2576
●内容/術後のストーマケア、装具の正しい使い方、災害時の対応の仕方、社会生活や福祉制度、入浴の方法などの相談
●対象/県内のオストメイト(人工肛門・人工膀胱造設者)とその家族および関係者
●日時/場所/①6月16日(日)・宮城県立がんセンター、②7月6日(土)・登米市市民病院。いずれも午後1時~4時
●申し込み/不要
●日本オストミー協会宮城県支部 ☎080(5567)3348(携帯) ☎022(211)2541

労働問題(個別労使紛争)解決をお手伝いします

県は、不当な解雇や長時間労働、パワハラなどにより労働者と会社の間で生じる労働

宮城県職労関係者情報センター

●目的/我が国の全ての産業分野における事業所の活動状態などの基本的構造を全国および地域別に明らかにし、事業所・企業をおご意見や募集します。
●調査方法/今年6月から来年3月まで計画的に、調査員が全ての事業所の活動状態を調査地に確認し、新たに把握した事業所には調査票を配布しますので、オンラインまたは郵送によりご提出ください。
皆さんの調査へのご理解・ご回答をよろしくお願いいたします。
統計課 ☎022(211)2457

盲ろう者通訳・介助員養成講座受講生募集

●対象/県内在住で講座修了後、盲ろう者通訳・介助員として活動できる方
●日程/7月7日~11月17日の主に日曜日(全11日間)
●会場/宮城県視覚障害者情報センター他
●定員/16人程度
●費用/受講料無料(テキスト代実費)
●申し込み/6月17日(月)必着で申込書に必要事項を記入し、郵送により右記センターへ。募集要項、申込書などはホームページからダウンロードまたは右記センターへ請求。

●宮城県視覚障害者情報センター ☎022(393)5501
Eメール/info@mimisuppo-miyagi.org
●障害福祉課 ☎022(211)2541

経済センサス-基礎調査

●目的/我が国の全ての産業分野における事業所の活動状態などの基本的構造を全国および地域別に明らかにし、事業所・企業をおご意見や募集します。
●調査方法/今年6月から来年3月まで計画的に、調査員が全ての事業所の活動状態を調査地に確認し、新たに把握した事業所には調査票を配布しますので、オンラインまたは郵送によりご提出ください。
皆さんの調査へのご理解・ご回答をよろしくお願いいたします。
統計課 ☎022(211)2457

政策評価・施策評価などに関する意見募集

平成30年度に実施した政策・施策の評価などに関する資料を公表し、県民の皆さんのご意見を募集します。
●資料公表場所/県政情報センター、各地方振興事務所(仙台を除く)県政情報コーナー、県議会図書室(県議会庁舎)、ホームページ
●提出方法/6月21日(金)までに、郵送(消印有効)、ファクシミリまたはEメールにより下記へ
●震災復興政策課 〒980-8570(所在地記載不要)

☎022(211)2406 FAX022(211)2493
Eメール/seisakuken@pref.miyagi.jp

親子統計グラフ教室参加者募集

親子で楽しく統計グラフを作りながら、統計的な見方や考え方を学び、興味を持った事例を数字やグラフで表現する力を育む親子統計グラフ教室を開催します。
●対象・定員/小学4~6年生の児童とその保護者15組30人程度(先着順)
●日時/7月13日(土)午後1時~4時
●場所/県庁第二礼堂
●費用/無料
●申し込み/7月8日(月)までに所定の申込書により下記へ。申込書は各小中学校で配布またはホームページからダウンロード。
●統計課 〒980-8570(所在地記載不要) ☎022(211)2451

低炭素型ライフスタイル導入支援事業申請受け付け中

下水道未整備地域にお住まいで、低炭素化を促す設備を新たに設置した方に費用の一部を補助します。
●対象/節湯水栓(2口以上)、節水型トイレ、低炭素型対面型浄化槽(設置が個人)の全てを設置し、平成31年1月1日以降に使用開始した。
●補助金額/1世帯あたり6万円(先着順300世帯まで)。
●募集締切/令和2年1月31日(金)(補助世帯数を超えた場合、期間内でも受け付けを終了します)。
●備置型社会推進課 ☎022(211)2648

宮城県献血推進協議会委員募集

●内容/年間1、2回程度会議に出席し、献血の推進について審議。
●対象・募集人員/県内に在住、在勤または在学している18歳以上の方・1人
●申し込み/6月28日(金)(消印有効)までに、申込用紙に必要事項を記入し、郵送により下記へ
●事務局 〒980-8570(所在地記載不要) ☎022(211)2652

特別支援教育公開講座①「学びと育ちを支える関係づくり」

●講師/宮城教育大学教授 植木 潤 氏
●日時/7月6日(土)
●会場/県総合教育センター(名取市美田園二丁目1-4)
●申込受付期間/7月5日(金)まで
●申込方法/講座名、氏名、住所(市町村名まで)、緊急時の電話番号を記載し、Eメール、電話またはファクシミリにより下記へ。
※1回で複数名申し込み可能です。
●組合教育センター ☎022(784)3561 FAX022(784)3571
Eメール/special-s@edu-c.pref.miyagi.jp

宮城県登録販売者試験

●受験資格/不問
●試験日/8月28日(水)
●試験会場/仙台サンプレータ他
●受験手数料/1万7600円
●願書受付期間/6月10日(月)~7月2日

(火)郵送は6月24日(月)消印有効
●願書配布/下記で配布または事務局ホームページからダウンロード
●県の各保健所・支所 ※仙台市の保健所では扱っていません。
●事務局 ☎022(211)2653

参議院議員通常選挙立候補予定者等説明会

第25回参議院宮城県選挙区選出議員選挙の立候補手続きおよび選挙運動の制限などについて説明します。
●日時/6月17日(月)午後1時30分
●場所/県庁2階議室
●選挙管理委員会事務局 ☎022(211)2343

若年性認知症相談窓口

【65歳未満の方で認知症についてお悩みの方またはご家族】
「最近、もの忘れが原因で仕事のミスが増えている」「認知症と診断されたが、子供が小さく家のローンもあり、どうしたらよいかわからない」など、若年性認知症に関する悩みを抱えている方のために、専門相談窓口を設置していますので、お気軽にご相談ください。(相談無料、秘密厳守)
●相談/いづみの診療所RBA相談室 ☎022(346)7068
●受け付け/月曜日~金曜日(祝日を除く)午前9時~午後4時
●長寿社会政策課 ☎022(211)2552

企画/宮城県広報課

広告に関するご意見は「JAROオンラインご意見箱」または「お電話」で。

JARO

東京 (03)3541-2811 | 大阪 (06)6344-5811



広告・表示のフェアプレイを推進しています。

JARO 公益社団法人 日本広告審査機構